

理学部生向け・海外留学の手引き 大学院留学の概要

海外の大学院は、恵まれた奨学金や、レベルの高い競争相手の存在など、研究者を目指す方にとって多くのチャンスを与えてくれる場所です。良い条件で入学することは簡単ではなく、トップレベルの成績（GPA）を保っておくことや語学力の研鑽はもちろんのこと、研究に関連する課外活動における実績、力強い推薦状を書いていただくための教員からの信用、希望する研究分野に最適な留学先を見つけるための情報収集など、低学年のうちから準備を進めておくことが大切です。

1. 基本事項

- 理学の場合、修士と博士に分かれておらず、5年間一貫教育の博士課程が通常である。

2. 選抜方法

- 院試は無く、GPA、各種統一テスト、推薦書、小論文といった応募書類で選考される。
- 選抜は個人ベースで行われるので、国際ランキングと入学難易度は必ずしも連動しない。
- GPAは選考において非常に重要なので、理学部在学中はなるべくAを取るように頑張る。米国のGPA計算方法(90点以上=4.0、80点以上=3.0、以下同様)において3.5以上無いと、留学先の大学院から奨学金を得ることはほぼ不可能となる。京大だからGPAが低くても許されるというような配慮はしない。英国もほぼ同様で、GPAにより出願できる大学が限定される。
- TOEFLiBTまたはIELTSのスコアの提出が必要。いずれも、ほとんどの大学で通用する。
- 米国の場合、英語テストの他、理学の場合はGREという共通テストの受験が必要となる。GREのGeneral test（非常に簡単な数学と非常に難しい英語）と、Subject test（数学、物理、化学、生物のいずれか該当する科目）を要求されることがほとんどである。
- 特に州立大学や国立大学の場合、何らかの奨学金を持参すると合格の可能性が上がる。
- 履歴書（CV）の提出が求められることがあり、正規の学業以外にも、インターンシップ経験、交換留学経験、受賞経験、学会発表経験といった課外活動があると有利になる。
- 指導教員等からの推薦書が求められる。米国の場合は3通も必要なので、研究室の先生以外からも実力を認めてもらえるよう、幅広く履修や課外活動をしておくことが望ましい。
- 一番重要なのは研究計画書で、これまで学んだこと、研究の動機、大学院入学後の研究計画等について述べる。それが志望先の研究内容に合致していることや、研究に貢献できる人材であることを納得させる必要がある。入試というよりも就職活動や求婚に近いと心得る。
- 応募先の指導教員とメール等で連絡を取り、研究計画について相談しておく。特に日本人の場合、研究上のコミュニケーション力不足が心配されがちなので、スカイプ等の面接を推奨する。

3. 留学にかかる費用

- 授業料が年間200～500万円程度と高額なので、奨学金を利用することが留学の前提となる
- 米国の場合、州立大学よりも私立大学のほうが、外国人が奨学金をもらえる可能性が高い。
- 著名大学、ランキング上位の私立大学ほど、奨学金の原資を多く持っている可能性が高い。

- 英語圏に限ってざっくり整理すると（社会情勢により変わります）
奨学金のチャンス 米国>英国>オセアニア・カナダ
アルバイトの機会 オセアニア・カナダ>英国>米国
- 日本政府や民間財団の給付型奨学金も多数あり、海外の大学院に進学する理学部生はほぼ何らかを受給している。留学費用の全額支給または一部支給。
- 博士後期課程には授業料免除や大学からの奨学金、ヨーロッパの場合は給与が支給されるので、博士前期課程の2年間さえ乗り切れば、あとは経済的な心配は無くなる（理学専攻の場合）。

4. 学生ビザ

- 学生ビザや滞在許可証のルールは国によって大きく異なる。
- 通常、最低でも2ヶ月から半年以上かかることもあるので、合格通知をもらったらすぐに留学先に問い合わせ、手続きを開始する。
- 米国の場合、入学が決まるとI-20というビザ発給のための書類が留学先から発行されるので、それをもって米国大使館／領事館にオンライン予約をし、ビザ取得の面接を受ける。
- 英国の場合、IELTS-UKVIという英語の試験を指定されたテスト会場で受ける必要がある。
- 在学期間中の学費と生活費相当額の奨学金の証明書または銀行残高証明書が求められる。

5. 準備の流れ

- 1 回生：G P Aを高く保つような履修計画。交換留学等の準備、英語の勉強
- 2 回生：G P Aを高く保つ。英語テスト（TOEFLiBT, IELTS）対策・受験、交換留学など
- 3 回生：大学院での研究の方向性を決め、志望する研究室の教員にコンタクトをとる
- 4 回生：（国内の大学院試）、G R E対策・受験、出願書類作成、10～12月頃に出願

この間にも各自で随時、交換留学の他、学休期間中のインターンシップや研究系アルバイト、各種研究コンテストへの参加など、課外活動の経験を積んでおくように心がけておいてください。

全学共通教育科目「英会話・英作文基礎 - E 3」（担当：鈴木あるの、前期、後期とも木曜日3限）

- 多くの学生が苦手とする Speaking と Writing に特化しスキルアップする演習
- 海外の大学や就職事情といったテーマで実用的な情報も提供
- ディスカッションや会話の演習
- スピーチやプレゼンテーションのノウハウを伝授
- 応募書類作成を模した添削課題

留学支援室での相談について

個人面談や応募書類の添削を希望する方は、メールで予約してください。

担当者：鈴木あるの（理学研究科附属サイエンス連携探求センター国際戦略部門講師）

場所：理学部6号館南棟2階（206号室）留学支援室 ※相談室の隣

予約可能時間：平日 10:30～18:00（授業や会議で外出が多いため予約制となっています）

メールアドレス：suzuki.arno.2c@kyoto-u.ac.jp

電話番号：075 - 753 - 3641